

日本言語学会第 154 回大会 プログラム

会 長 窪 菌 晴 夫
大会運営委員長 内 海 敦 子
大会実行委員長 小 川 定 義

期 日： 2017 年 6 月 24 日（土）・ 25 日（日）
会 場： 首都大学東京（〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1）
Tel/Fax: 042-677-1111（代） / 042-677-2158（大会実行委員 本間 猛宛）
E-mail: lsj154tmu@gmail.com

※駐車場はありませんので、自動車でのご来場はご遠慮下さい。
※キャンパス内は指定の場所以外での喫煙は禁止されています。

— 第 1 日（6 月 24 日） —

10:00-12:30	評議員会（評議員の方はご出席下さい。詳細は別便の案内をご参照下さい。）	本部棟 1 階大会議室
12:00-	受付	1 号館 1 階入り口
13:00-17:40	口頭発表（詳細は 2-3 頁にあります。）	1 号館 1~3 階
18:00-20:00	会員懇親会	ルヴェソンヴェール （国際交流会館 1 階）

— 第 2 日（6 月 25 日） —

9:30-	受付	1 号館 1 階入り口
10:00-12:00	ワークショップ（詳細は 4 頁にあります。）	1 号館 1 階, 2 階
11:30-12:50	ポスター発表（詳細は 4 頁にあります。）	1 号館 2 階
13:00-13:40	会長挨拶，開催校挨拶（首都大学東京人文科学研究科科長 平井博）， 日本言語学会学会賞授賞式，会員総会	6 号館 1 階 110 教室
13:40-16:40	公開シンポジウム「言語への脳遺伝学的接近」 司会 本間 猛（首都大学東京） 「発達期における脳と言語—普遍性と固有性の共存」 保前 文高（首都大学東京大学院） [S-1] 「齧歯類を用いた音声コミュニケーション解析と遺伝的・環境的影響」 大隅 典子（東北大学大学院） [S-2] 「自閉症・言語障害などの原因遺伝子 AUTS2 の解析」 星野 幹雄（国立精神・神経医療研究センター神経研究所） [S-3] 「ヒトは、いつ、どのようにして言語を持つようになったのか —言語の起源と進化をめぐって」 池内 正幸（名古屋外国語大学） [S-4]	6 号館 1 階 110 教室

公開シンポジウムはどなたでもご参加いただけます。

■口頭発表（6月24日(土) 13:00-17:40)

	A会場（1号館1階101） 司会：[1-2] 木山 幸子, [3-4] 大石 衡聰, [5-7] 小野 創	B会場（1号館1階107） 司会：[1-2] 長屋 尚典, [3-4] ダニエル・ロング, [5-7] 中川 裕
13:00-13:30	[A-1] Shoko SHIDA, Natsuno AOKI, Kentaro NAKATANI When an onomatopoeia triggers different semelfactive interpretations: An experimental study	[B-1] 野元 裕樹, 赤瀬川 史朗, 塩原 朝子 類似言語におけるウェブコーパス整備：マレー語とインドネシア語の言語判定の事例
13:40-14:10	[A-2] 津村 早紀, 広瀬 友紀 「誰も」を含む項・述語依存関係の処理—自己ペース読文実験による検討—	[B-2] Akitaka YAMADA A reflection on the clustering in corpus linguistics
14:20-14:50	[A-3] 矢野 雅貴, 新国 佳祐, 小野 創, 木山 幸子, 里 麻奈美, Tang, Apay Ai-yu, 安永 大地, 小泉 政利 タロコ語文理解実験からみる基本語順と普遍的認知特性について—事象関連電位を指標として—	[B-3] 柳村 裕 敬語の習得時期とその話者属性差：岡崎敬語調査資料の分析
15:00-15:30	[A-4] 謝 尚琳, 小泉 政利 中国語を母語とする日本語学習者による正順とかき混ぜ語順の受動文の理解	[B-4] 平田 秀 2015年・2016年の日本語歌謡曲における特殊モーラについて
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[A-5] 吉田 絢奈, 宮本 エジソン 非対格動詞と非能格動詞の漢語動詞の読み時間の比較	[B-5] 藤原 敬介 ガナン語における音節末閉鎖音付加
16:30-17:00	[A-6] 木山 幸子 高齢女性による終助詞「ね」の高評価：对人的文末モダリティ認知の調査から	[B-6] 三村 竜之 アイスランド語における疑問文のイントネーション
17:10-17:40	[A-7] 浅原 正幸 読み時間と節境界について	[B-7] 渡部 直也 ポーランド語の語形成における子音の硬軟の統一性

	C会場（1号館1階110） 司会：[1-2] 長谷川 宏, [3-4] 石井 透, [5-7] 田中 英理	D会場（1号館2階201） 司会：[1-2] 堀 博文, [3-4] 田口 善久, [5-7] 田村 幸誠
13:00-13:30	[C-1] 西前 明 英語の不定詞関係節・目的節における空所の埋め込みの深さについて	[D-1] 河内 一博 シダーマ語の「言う」／「する」を使った表現の慣用化：脱イディオフォン化と語形成
13:40-14:10	[C-2] 藤井 俊吾 ドイツ語の完了助動詞選択に於けるアスペクトの影響	[D-2] 中川 裕 クリック子音体系の言語獲得：グイ語事例研究
14:20-14:50	[C-3] Linyan QIU, Satoshi OKU Unaccusativity and possessor raising in Chinese	[D-3] 牧野 友香 ランバ語の2種類の Anterior <i>-li-VR-ile</i> 形式と <i>-aa-VR-a</i> 形式—
15:00-15:30	[C-4] Ryosuke HATTORI Language acquisition of parametric variation in clausal comparatives based on subset principle	[D-4] 古本 真 スワヒリ語マクンドゥチ方言における主題を標示する指示詞の縮約形
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[C-5] Hiroaki SAITO Counterfactuality of deontic <i>should have</i> in English	[D-5] 高橋 清子 タイ語小辞 <i>káo</i> の対話者志向の機能：会話コーパスの分析
16:30-17:00	[C-6] Kaori MIURA Agentivity in the unaccusative structure	[D-6] 山部 順治 オリア語における、同一格の連続を許す構文環境と、許さない構文環境
17:10-17:40	[C-7] Koji SHIMAMURA Introducing quote in Japanese and its crosslinguistic relevance	[D-7] 中本 舜 ボポロカ語 * <i>tí</i> 「やつ」の文法化

	E会場（1号館2階210） 司会：[1-2] 風間 伸次郎, [3-4] 山越 康裕, [5-7] 藤代 節	F会場（1号館2階220） 司会：[1-2] 児玉 望, [3-4] 中村 渉, [5-7] 新田 哲夫
13:00-13:30	[E-1] 榎村 輝 ペルシア語の関係節からみた「語」における意味と形式のミスマッチの問題について	[F-1] 林 由華, 田村 早苗 日本の諸方言における「逆使役」—通方言の研究に向けて—
13:40-14:10	[E-2] 梅田 遼 フィンランド語の非定形節における主格目的語	[F-2] 團迫 雅彦 主文における主語の形態的具現化: 幼児の属格主語と熊本方言の比較から
14:20-14:50	[E-3] 山崎 雅人 満洲語文語の従属節属格主語の機能について	[F-3] 井上 拓也 アイヌ語沙流方言の場所表現における「場所名詞」に関する研究
15:00-15:30	[E-4] 山田 洋平 ダグール語の述語人称欠如による主語の非主語化	[F-4] 岸本 宜久 アイヌ語の複雑述語における補文構造
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[E-5] 菅沼 健太郎, 藤家 洋昭, アクパイ・オカン・ハルク エスキシエヒル・カラチャイ語の有声唇歯摩擦音	[F-5] 白田 理人 北琉球奄美喜界島上嘉鉄方言の疑問詞述語について
16:30-17:00	[E-6] 青山 和輝 トルコ語、アゼルバイジャン語の複数接辞のバリエーション	[F-6] セリック ケナン, 林 由華 宮古語における終止連体形の定動詞性と動詞活用体系の歴史的発展の関係
17:10-17:40	[E-7] 江畑 冬生 トゥバ語の再帰	[F-7] 麻生 玲子, 林 智昭 南琉球八重山語波照間方言の引用助詞=teに見られる文法化

	G会場（1号館2階240） 司会：[1-2] 伊藤 さとみ, [3-4] 金 善美, [5-7] 尾谷 昌則	H会場（1号館3階310） 司会：[1-2] 三宅 知宏, [3-4] 高野 祐二, [5-7] 越智 正男
13:00-13:30	[G-1] 中村 渉 日本語の可能構文における格付与	[H-1] 中島 優 名詞句内部における未確定表現の認可の方略
13:40-14:10	[G-2] 崔 盼盼 「過分義」を表す動補構造および動詞コピー構文に関する考察—構文文法の観点から—	[H-2] 野口 雄矢 日本語直接引用節再考 —生成文法・日本語学の観点から—
14:20-14:50	[G-3] 森 創摩 演繹とアブダクションに基づいた条件文についての考察：推論アプローチによる通言語的分析	[H-3] 高橋 洋平 イディオム断片 DP の関係節化における補文標識と wh 関係代名詞の選択について：部分格付与による統一的説明
15:00-15:30	[G-4] 蘇 丹 「習得」に関する変化動詞のアスペクト的意味の分析	[H-4] 木村 宣美 名詞の修飾辞を伴う後置文：移動と削除に基づく分析
15:30-15:50	(休憩)	(休憩)
15:50-16:20	[G-5] 木戸 康人 統語的複合動詞 V+疲れる について	[H-5] Asako MATSUDA Partial Control PRO as an associative plural
16:30-17:00	[G-6] 氏家 啓吾 「地図をたよりに」構文における名詞の臨時的な意味拡張	[H-6] 田口 茂樹 日本語の例外的格標示構文における目的語上昇パラドックス
17:10-17:40	[G-7] 三好 伸芳 連体修飾句の振る舞いから見た内包的述語のタイプ分け	[H-7] 加賀 信広 日本語間接受動文の被害性と格配列理論

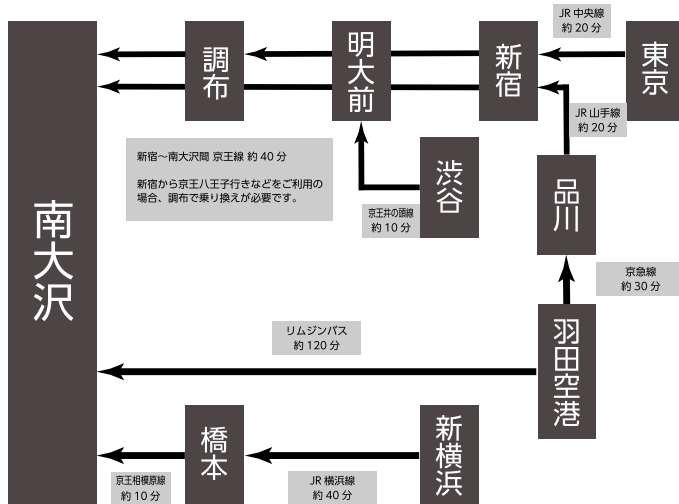
■ワークショップ（6月25日(日) 10:00-12:00)

1号館 1階 120	[W-1] 所有の言語学: <i>To Have, or Not To Have</i> 企画：石塚 政行, 司会・コメンテーター：西村 義樹, コメンテーター：梅谷 博之
	[W-1-1] チェコ語の所有文と存在文が表す全体部分関係 浅岡 健志朗
	[W-1-2] バスク語の位置属格と存在文が表す全体部分関係 石塚 政行
	[W-1-3] タガログ語の所有と存在のあいだ 長屋 尚典
1号館 2階 230	[W-2] スワヒリ語圏アフリカにおける多言語状況の実態 一言語接触状況下での多様な言語現象から捉える— 企画: 品川 大輔, 司会: 品川 大輔
	[W-2-1] スワヒリ語と民族語の code-mixing を含む会話に見られる言語使用の実態 杵掛 沙弥香
	[W-2-2] 民族語間の言語接触による文法レベルの影響 安部 麻矢
	[W-2-3] スワヒリ語と民族語の言語接触による文法レベルの影響 米田 信子
	[W-2-4] スワヒリ語を基盤とする都市混合言語における新たな文法特徴の創出 品川 大輔

■ポスター発表（6月25日(日) 11:30-12:50)

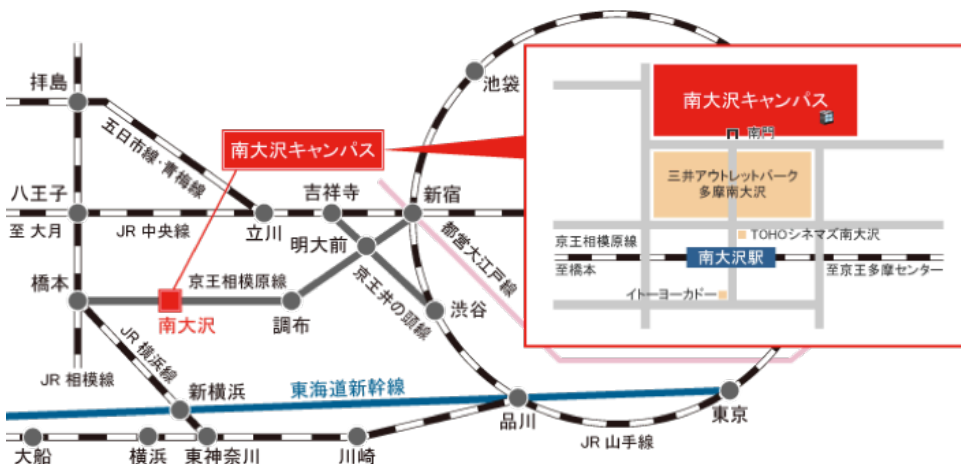
1号館 2階 205・206	[P-1] 大山 祐亮 共通スラヴ語における前舌母音化の音韻的条件
	[P-2] 松浦 年男 イッド(一度)にロッゴ(六合)? 語根融合における音韻制限の多様性
	[P-3] 羅 希 中国語・天津方言の感動詞の記述的研究—「诶 (ei)」を中心に—
	[P-4] 藏藤 健雄, 井上 雅勝, 松井 理直 日本語量化文解釈の方略と選好性について
	[P-5] 金子 真 3つのタイプの認識的不定表現
	[P-6] Deokhyun NAM Preverbs and applicative affixes

研究発表会場(首都大学東京・南大沢キャンパス)へのアクセス



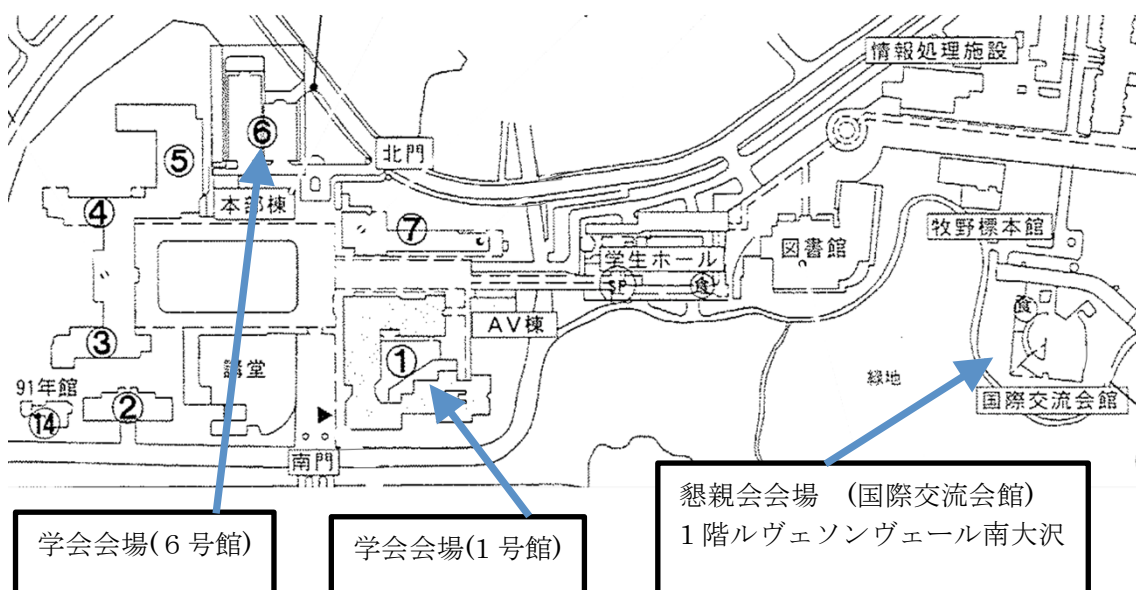
新宿, 調布, 多摩センター, 新横浜, 町田, 橋本などからのアクセスが良いので, 宿泊をお考えの方はこれらの場所をお勧めします。山手線沿線からも1時間程度で到着します。

アクセスマップ



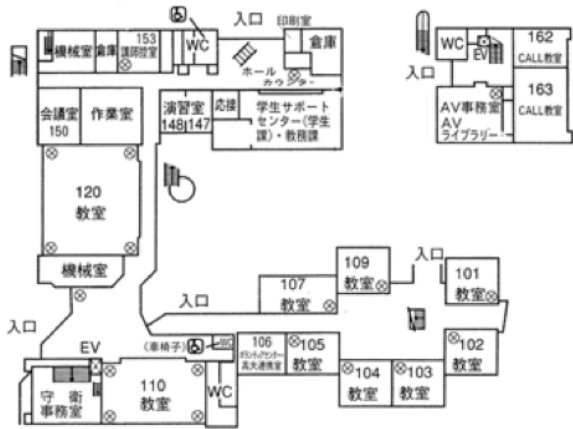
南大沢の改札を出て右のペデストリアンデッキ(三井アウトレットパークの中)をお進みいただくと首都大学東京の南門に着きます (google map 通りに来られると遠回りになりますのでお気を付けてください)。

首都大学東京 南大沢キャンパスマップ



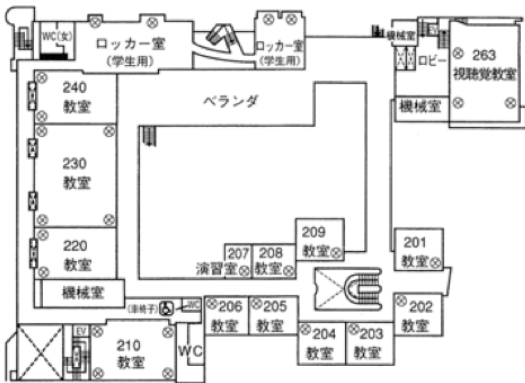
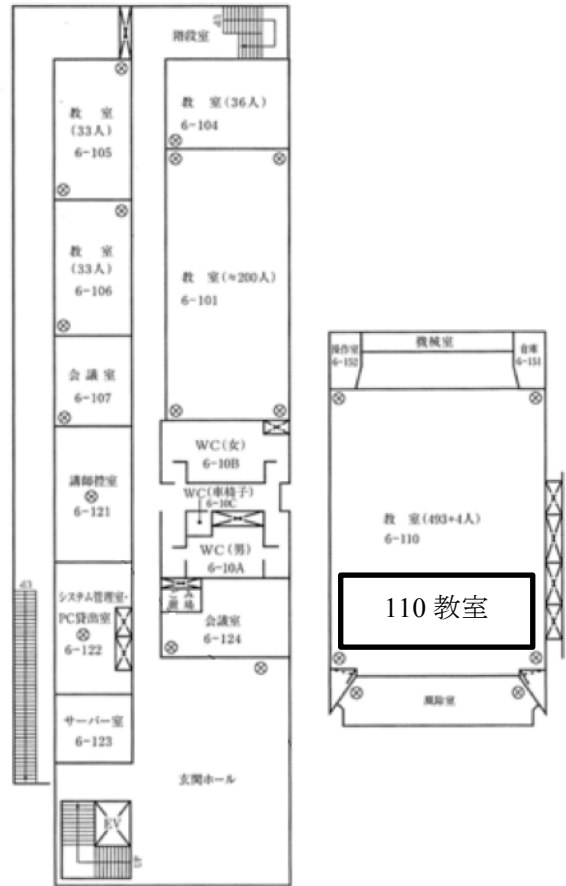
会場配置図 (1号館)

会場配置図 (6号館)

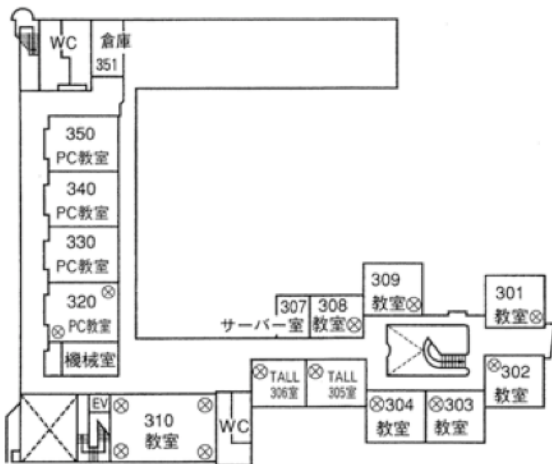


1号館 1階

6号館



1号館 2階



1号館 3階

事務局からのお知らせ

◆熊本地震で被災された方々への会費免除

平成 28 年熊本地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。日本言語学会では被害を受けられた会員の方々に対して 2016 年度の会費を免除していますが、この支援を 2017 年度まで継続します。熊本地震による被害を理由とする申請であれば、申請者の居住地は問いません。今年度は 2017 年 4 月 1 日～9 月 30 日の期間、申請を受け付けます。

免除を希望される方は、事務支局までご連絡ください。また周囲に被災された会員の方がいらっしゃいましたら、このことをお伝えくださるようお願いいたします。

◆大会予稿集の PDF 化と大会参加費の改定（今年度より）

2016 年春より大会予稿集を PDF 化し学会ホームページに事前公開していますが、今大会（2017 年度春季大会）以降、紙媒体の予稿集が廃止され、ホームページ上の PDF のみとなります。これに伴い、2017 年度より大会参加費を一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円とすることが決まりました（従来はともに 2,000 円）。なお、非会員の大会参加費は一般が 3,000 円、学生が 2,000 円となります。

「会員」とは 2016 年度もしくは 2017 年度の会費を納入された方です（2016 年度の会費を納められなかった方は 2017 年 3 月末で会員資格を失っています）。会員には今大会のプログラムが郵送されています。

◆大会会場でのインターネットの利用について

第 154 回大会会場では docomo 他の公衆無線サービスが利用できます（サービスに加入している場合）。eduroam は利用できませんのでご承知おきください。学内 LAN の利用を希望される方は大会受付にお越しください（ただし電波がつながりにくい場所もあり、利用者数にも制限があります）。予稿集（電子版）をご利用の場合は、事前にダウンロードして来られることをお勧めします。

◆『言語研究』印刷版の送付停止希望について

『言語研究』が刊行と同時にオンライン公開されるようになったことに伴い、印刷版（冊子体）の送付を希望しない会員には郵送しないことになりました。印刷版の送付停止をご希望の場合は、学会ホームページにあります会員情報管理システム（下記）に入り、「会員登録情報」の変更を行ってください。会員情報管理システムに入れない方は、学会事務支局（lsj@nacoss.com）までご連絡下さい。

<https://www.e-naf.jp/LSJ/member/login.php>

お知らせ

◆大会参加費と予稿集

大会参加者は大会受付にて参加費（一般会員 2,000 円，学生会員 1,000 円，一般非会員 3,000 円，学生非会員 2,000 円）をお支払いの上，名札をお受け取り下さい。予稿集は大会の 1 週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので，事前にダウンロードを済ませてから会場にお越し下さい。本大会より紙媒体での予稿集頒布は行いませんのでご注意下さい。

◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は，返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上，**6 月 2 日（金）（必着）**までに学会事務支局までお申し込み下さい。

◆大会期間の昼食について

大学内の食堂は，土曜日は，11 時 30 分から 14 時までの営業です。また，日曜日は営業していません。南大沢駅周辺の飲食店およびコンビニエンスストアをご利用下さい。

◆懇親会の申し込み

懇親会へ参加ご希望の方は，大会当日に受付でお申し込み下さい。会費は，一般 5,000 円，学生 3,000 円です。

◆保育室の設置

保育室を設置します。保育室の利用を希望される方は，学会ホームページ「保育室の設置について」をお読みになった上で，2017 年 6 月 6 日（火）までに保育室担当宛（lsj.childcare@gmail.com）にご連絡下さい。

- ・利用可能時間：6 月 24 日（土）12:50-17:50，6 月 25 日（日）9:50-16:50
- ・料金：お子様 1 人あたり 1 時間につき 500 円

◆車椅子の利用について

ご利用希望の方は，6 月 9 日（金）までにお申し込み下さい。（申込先：lsj154tmu@gmail.com）

◆手話通訳などについて

手話通訳，ノート・テイクなどをご利用希望の方は，学会ホームページの大会案内をご覧ください。

◆書籍展示

書籍展示は，1 号館 1 階（103 教室，104 教室）にて行います。

◆大会予稿集，『言語研究』のバックナンバー

今大会においても余剰分の『言語研究』バックナンバーを大会会場において無料頒布します（郵送等のサービスは行っておりません）。なお，大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは引き続き郵送での注文も受け付けております。購入をご希望の方は，在庫状況を学会ホームページでご確認の上，学会事務支局までお申し込み下さい。

◆クロークの設置

クロークを設置します。ご利用の方は，当日受付にお申し出下さい。

◆資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会，研究会，講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

次回大会予告（2017 年秋季大会：第 155 回大会）

場 所：立命館大学 衣笠キャンパス（〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1）

日 程：2017 年 11 月 25 日（土）・26 日（日）

公開シンポジウム，口頭発表，ワークショップ，ポスター発表

研究発表募集：**学会ホームページから発表申し込みができます。**

・発表応募締め切り **2017 年 8 月 20 日（日）（必着）**

・採否通知 **2017 年 9 月中旬**

* 宿泊施設の混雑が予想されます。宿泊を必要とされる方は早めの予約をお勧めします。

問い合わせ先

日本語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacoss.com